

泌尿器科後期研修プログラム

(はじめに)

東京医科大学病院泌尿器科においては、平成 18 年度より卒後臨床研修を 2 年間終了した医師に対し、後期研修として、泌尿器科専門医の育成を目的として以下の研修プログラムを設定する。

したがって、専門研修(後期研修)を 3 年終了した時点で、日本泌尿器科学会の定める専門医試験を受験し、専門研修を 4 年終了した時点での専門医の取得を目指すものである。

参考として、現在日本泌尿器科学会専門医制度審議会において作成中の泌尿器科専門医研修マニュアルを添付するので参照されたい。但しこのマニュアルは現在審議中のものであり、多少の変更がある点を付記する。

(泌尿器科とは)

泌尿器科とは主に腎臓・膀胱などを中心とした尿を作り排泄する臓器(尿路臓器)、前立腺・精巣(睾丸)など男性生殖器、副腎、腎臓移植などの診断と治療(手術治療を中心)を行う外科学である。

主な取り扱い疾患 は

1. 小児泌尿器科(先天異常、小児がん)
 2. 感染症
 3. 尿路結石
 4. 悪性腫瘍(がん)(副腎、腎臓、尿管、膀胱、前立腺、精巣、陰茎、陰嚢内)
 5. 膀胱機能障害(神経因性膀胱、尿失禁)
 6. 腎機能障害(透析、腎移植)
 7. 男性不妊(造精機能障害、インポテンス)
- などが挙げられる。

本院における取り扱い疾患は泌尿器科癌が多く、したがって手術件数も、膀胱癌 145 例(内膀胱全摘出+尿路変更術 30 例:全国 3 位)、前立腺全摘術 87 例(全国大学病院中 3 位)、腎摘出術(腎癌+尿路上皮癌) 45 例など悪性疾患が中心で

はあるが、年間 600 例超の手術件数を実施し、前立腺肥大症などの内視鏡手術あるいは、鏡視下手術等の実績も数多く有している。

具体的研修内容

基本的には 4 年間の専門医研修を実施する。

研修内容は日本泌尿器科学会専門医研修マニュアルに沿って随時研修を行っていくが、特に前記 2 年と後期 2 年に分けて実施する。

前期 1 年目

本院後期臨床研修プログラムに定められた履修項目については、これを踏襲する。

上記履修項目以外については 1 年目の 6 ヶ月はまず、泌尿器科学に関する基礎的知識あるいは手技の修得を病棟の業務を中心に行い、その修得を目指す。

すなわち、病棟患者管理を通じ、泌尿器科疾患に関する基本知識、泌尿器科画像診断、膀胱鏡操作等の修得とともに、難易度の軽い手術、あるいは手術の助手を務める。後半 6 ヶ月においては、上記に加え、外来業務にも参画し、外来患者の診断、治療等の実際を学ぶ。また、症例報告等学会発表を積極的に行い、知識の充実を計る。

1 年目で経験できる主な症例

疾患リスト	
膀胱腫瘍	200 例
前立腺腫瘍	150 例
腎腫瘍	50 例
副腎腫瘍	10 例
腎盂尿管腫瘍	20 例
精巣腫瘍	10 例
前立腺肥大症	200 例
腎，尿管，膀胱結石	200 例
腎盂腎炎	50 例
前立腺炎	10 例
副精巣炎	20 例
神経因性膀胱	30 例
陰嚢水腫	10 例
精液瘤	5 例
腎後性腎不全	20 例
勃起不全	20 例

前期 2 年目

2 年次には 1 年次での履修内容をさらに充実、発展させるとともに、より高度な技術の修得を目指す。

そのために、より専門性を高める目的で、本院あるいは関連病院での研修を行うが、状況によっては、一般消化器外科、小児外科、移植外科等への半年程度の出向研修を考慮する。

後期 1 年目

前期 2 年の研修を基に、自らの興味に従い、更なる専門性を高める研修を行う。すなわち、自らの興味に合致した専門分野を選択し、一般泌尿器科学とともに、ある 1 疾患については本院の全ての患者を把握し、その診断・治療に参画し、専門性を高める（例えば膀胱癌、副腎腫瘍、鏡視下手術など）。

また、選択した専門分野に関する基礎的研究を開始する。

上記 3 年を経過した時点で泌尿器科学会専門医試験を受験する。

この試験の受験資格には到達目標として掲げた自ら参画した手術件数が存在するため、この症例数を満足するに足りる手術症例を術者あるいは第一助手として行う。

後期 2 年目

研修最終年として研修医班長（チーフレジデント）として、本院の泌尿器科患者すべてを把握し、自ら診断・治療を実施し手術の中心医師として勤める。

また、基礎的研究を完成させ（雑誌への投稿）学位取得の準備を整える。

なお、上記専門性の観点より、日本泌尿器科学会会員のみならず、その自らの興味から、日本がん学会、癌治療学会、腎臓学会、透析療法学会、外科系内視鏡学会、内分泌学会など各種学会員となり、専門医取得を目指すことを推奨する。

なお、状況により、関連病院での研修、海外留学については相談していくこととする。

週間予定

月	火	水	木	金	土
		7:30モーニングカンファ J of Urol 抄読会			1, 3, 5土曜日、スミス抄読会
8:00回診	8:00回診	8:00回診	8:00回診	8:00回診	8:30回診
午前～午後 検査 (RP など)	手術	手術	手術	神経因性膀胱 検査 (CMG)、 RP など	ESWL
午後 ESWL	ESWL	前立腺生検		前立腺生検	回診
17:00 術前カンファ	回診	回診	回診	回診	

研究面に関する実績

多くの研究プロジェクトが進行中であるが、その実績を知る上での泌尿器科学教室研究課題および研究費取得状況を以下記す。

- 1) ホルモン不応性前立腺癌に対する腫瘍特異抗原増幅樹状細胞によるワクチン治療、平成 12-13 年度 文部省科学研究費補助金 4,500 千円
- 2) 自己免疫能増強による難治癌の腫瘍特異的免疫治療法の確立
平成 12-13 年度 私立大学等経常費補助金 特別補助 (新技術開発研究)
13,000 千円
- 3) 健常者末梢血幹細胞および腫瘍特異抗原を用いた腫瘍選択的がん免疫細胞療法
の確立、平成 13 年度 三越生命科学振興財団、1,500 千円
- 4) 同種末梢血幹細胞由来高純化樹状細胞による腫瘍選択的抗癌免疫細胞治療
平成 14—16 年 文部省科学研究費補助金、14,000 千円
- 5) 同種幹細胞由来樹状細胞による免疫治療、上原生命科学財団研究助成：
平成 15 年度 (500 万円)
- 6) 血縁者臍帯血幹細胞由来成熟樹状細胞による前立腺癌特異的免疫細胞治療
三井生命厚生事業団医学研究助成：平成 16 年度 (300 万円)

以上のような潤沢な研究資金を得て研究環境は卓越した状況にある。